

平成27年度第4回新名取市図書館施設整備検討委員会議事録

会議名	第4回 新名取市図書館施設整備検討委員会	
日時	平成27年10月2日(金) 14時00分～16時00分	
場所	名取市図書館 南館	
出席者 【14名】	委員8名	早川光彦、志賀保史、佐伯幹子、板橋正春、三塚玲子、 下澤なおみ、長沼明子、大野千晴
	アドバイザー	岡本真
	事務局3名	生涯学習課 佐々木賢一課長補佐 図書館 柴崎悦子館長、石川雅一主査
	説明員2名	増田復興再開発推進室 松原妃主事 株式会社山下設計東北支社 大平順子主任
欠席者	委員1名	天間環
傍聴者	なし	

1 開 会

◎事務局

定刻を少し過ぎてしまいましたが、平成27年度第4回新名取市図書館施設整備検討委員会を始めてまいります。それでは開会に当たりまして、あいさつを早川委員長にお願いしたいと思います。

2 あいさつ

◎早川委員長

皆さん、こんにちは。本日は4回目の検討委員会となります。先ほど少し岡本さんと図書館が新しくなる時というのは非常に楽しいことで、建物が新しくなるだけではなく、サービスやいろいろな可能性が実現できる大きなチャンスであり、また市民の大きな喜びであるという話をしていました。まさしく名取市の場合は新しい図書館の準備状況も順調であると思っています。

一方、今日本の図書館の中では残念ながらそうではない例がいくつか見られます。新しい図書館をオープンしようとしても市民から訴訟を起こされているところがあります。それは非常に不幸なことであり残念だなと感じております。せっかく新しい図書館ができるのだから、市民の期待に応えることができ、また役所も頑張り、双方にとって喜びであってほしいものが訴訟になってしまうというのは非常に残念な出来事だと感じております。その中で、名取市は今お話したことを踏まえて一つ一つ階段を上っていければと考えております。

今日も非常に大事な議案が控えておりますので、ご審議をよろしくお願いいたします。

以上でごあいさつとさせていただきます。

◎事務局

はい、ありがとうございました。続きまして、本日の会議ですが、新名取市図書館施設整備検討委員会設置要綱では、会議出席者数による定義は特にございませんが、欠席された委員は1名です。

本日の会議は、名取市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条の規定により公開の対象となりますが、本日傍聴の方はいらしていません。

また、非公開となるような議事の予定はしていませんが、非開示情報が含まれる場合は、会議に諮り決定していただくことになっております。

なお本日の会議録につきましては、名取市審議会等の会議の公開に関する要綱第9条の規定により、市政情報コーナーで会議を開催した日が属する年度の翌年度の4月1日から起算して3年間、閲覧に供される他、インターネット上、市のホームページに1年間公開されます。公開時の名前は、名字 ○○委員と表記されますのでご承知願います。

3 前回会議の報告

◎事務局

次に前回会議の報告になりますが、本日の通知と議事録を送らせていただいておりますので、ここでは省略させていただきます。

4 議事

(1) 情報発信コーナーについて

◎事務局

それでは、議事に入ってまいります。設置要綱第5条により議事の進行を早川委員長にお願いします。

◎早川委員長

それでは早速議事に移ります。3階情報発信コーナーについてご審議いただきたいと思っております。それでは事務局から説明をお願いいたします。

◎柴崎館長

前回説明が途中になっていました3階情報発信コーナーについて、今回改めて説明させていただきます。皆様からご意見等をいただきたいと思っております。

資料の1枚目にあります「情報発信コーナーの基本的な考え方」について、前回の資

料と全く同じものになり説明も済んでおりますので、今回は省略させていただきます。

この考え方を設計担当の方に伝え図面になったものが、2枚目の資料「情報発信コーナー」です。これは別添カラー資料の拡大図になります。

内容を説明しますと、図面の左上がコーナーの出入り口になります。柱がありその両脇から中に入るようになります。このコーナーのデザインについて、設計担当から幾つか提案され、その中から図書館側で選んだものが今回お示しした図面となります。

3階フロアは書架が並行に端から端まで並ぶ単純なレイアウトになりますので、このコーナーについては少し遊びを持たせたいという考えがありました。

真ん中に大きなサークルがありますが、ここは書架になり郷土資料を置きます。中心部分は閲覧テーブルと椅子になります。

南面は全部郷土資料の書架になります。幾つかの文化財をガラスの展示ケースに入れ、それをこの棚に埋め込んで、現物資料を展示するイメージを持っています。

右側の壁面の書架には行政資料を置きたいと考えています。

それから準備室の左側の書架には震災関連資料を置きたいと考えています。

その左側にはデジタルサイネージとあります。どのようなものかといいますと、よく施設のエントランスあたりにデジタルで今日の催し物等を表示させているものになります。ここで考えているものは、双方向性のデジタルサイネージで、名取市に関する様々な情報コンテンツをこの中に組み込み、画面をタッチすることで利用者が知りたい情報をどんどん見つけていくというものをイメージしています。ディスプレイの大きさはそれほど大きくはないものを3台程度設置して、利用者に触っていただければと思っています。コンテンツについては今後図書館だけではなく、文化財や観光担当等市役所の部署と連携を取りながら、どのようなものにするか検討していきたいと思っています。

「雷神山」型組み合わせテーブルとありますが、東北最大級と言われている名取市史跡の雷神山前方後円墳の形をした組み合わせのテーブルをここに配置し、名取市の長を出したいと考えております。

それから一番左側の展示用書架は、本を面で見せるような棚と椅子の配置を考えております。

このようなデザインを考えておりますが、ご意見やより良いアイデアがありましたら頂戴したいと思います。よろしく申し上げます。

◎早川委員長

はい、ありがとうございます。では委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。

◎板橋委員

確認ですが、カラー図面の緑色の●は椅子でしょうか。

◎柴崎館長

はい、そうです。

◎板橋委員

閲覧できる本がいっぱいあって、30席以上座れるということですね。わかりました。

◎三塚委員

左端の展示用書架では、ここで本を見ることができるよう椅子を備えているのでしょうか。それから円形の本棚は何段ぐらいを考えていますか。

◎柴崎館長

展示用書架はそのように考えています。また円形の本棚は座って頭が隠れる高さに抑え、4段か5段程度を考えています。

◎佐伯委員

「雷神山」型組み合わせテーブルは動かせますか。

◎柴崎館長

組み合わせテーブルなので自由に動かせます。

それから先ほど説明していなかったのですが、行政資料の横の点線で囲われたものはスクリーンになっております。ここでちょっとした講座や催し物を考えていますので、テーブルや椅子を動かすことができ、自由にこのスペースを使えるようにしたいと考えています。

◎下澤委員

展示用書架は具体的にどのように利用するのでしょうか。

◎柴崎館長

椅子はスツールのように簡単に動かせるものを置き、展示棚から本を取って座って読むような使い方をイメージしています。

また、南面の郷土資料を置く書架は普通の一般的な書架ではなく、先ほど申し上げましたように、ガラスの展示ケースを組み入れますので少し遊び心を持たせた棚のつくりの書架にしたらどうだろうかと考えているところです。そうしますとこのコーナーが施設内の一番奥にあるというのは、外から一番良く見せたい所でもありますし、この中を見ていただくためには展示用書架と書かれているこの部分もガラス張りにした方が、

中ではどんなことをしているのか、どんなものがあるのかがよく見えるのではないかと
思いまして、展示用書架は若干減らした方が良いのかなとも考えているところです。

◎板橋委員

南側のガラス展示ケースには土器等文化財を入れるのでしょうか。

◎柴崎館長

はい。南側の郷土資料と書いてあるところは、全てガラス展示ケースではなく、書架
の一部にガラスの展示ケースを組み入れるというイメージになっています。入れるもの
は文化財で所有している土器等現物資料でこれを展示したいと考えています。

◎板橋委員

名取市には文化財が結構あるはずだが展示できる場所が無いので、お寺や神社、個人
が持っていたりしますので、そういうものを交替で展示できると良いと思うのですが、
真ん中のサークル書架の外側をガラスで展示できるようにはしないのでしょうか。

◎柴崎館長

サークル内は内側も外側も全て本を入れる棚として考えています。

◎志賀委員

デジタルサイネージについてですが、大きなタブレットみたいなものが並べてあるイ
メージでしょうか。

◎柴崎館長

そうですね。テレビのディスプレイがあって、それをタッチして自分の知りたい情報
を掴むというものです。従いましてコンテンツが重要になります。

◎志賀委員

手前にあるものは何ですか。

◎柴崎館長

ヒップバーになります。

◎志賀委員

情報発信コーナーという名前のイメージが分からないのですが、郷土資料コーナーと
いった名前であれば分かりやすいのではないのでしょうか。どのような情報を発信しようと
考えているのでしょうか。

◎柴崎館長

名前については現時点では暫定的なものです。名取のあらゆる情報をここから発信するというイメージです。

◎岡本アドバイザー

デジタルサイネージで皆さんが共通して見たことがあるのは、仙台駅 3 階新幹線ホームでいろいろな自治体の広報みたいなものだと思います。各自治体の観光情報や市長さんのメッセージ等が大体 30 秒に 1 回ぐらい画面が切り替わります。

◎志賀委員

多岐にわたるコンテンツが表示できるのであれば、いろいろな人が通りすがりに見るわけですから、施設内の奥まった場所にあるよりも入口付近にあった方が使いやすいのではないのでしょうか。

◎柴崎館長

このコーナーの場所についてはこれまでもいろいろ検討してきました。観光情報については確におっしゃるとおりですが、名取市の情報を 1 ヶ所に集めることや、一方的に情報を提示するだけでなく自分の知りたい情報を引っ張ってくるという双方向性のものをイメージしており、その場合近くにある本にたどり着くという便利さも兼ねているのではないかと考えています。観光客の方にもですが、市民の方が郷土のことについて学ぶ場所であるという考え方です。

◎志賀委員

今私が申し上げたのは観光客に対してのものという意味ではなく、もっといろいろな方がコンテンツに触れることができるようにするには入口の方が良いのではないかとこの意味合いで申し上げました。

◎柴崎館長

図書館側としましては、図書館の中まで踏み込んで入って来ていただき、興味の湧いた本を 1 冊でも借りていただきたいと思います。

◎板橋委員

私としましては志賀委員がおっしゃたように郷土資料コーナーという名前にしたいところですが、観光のコーナーとの両立という意味合いもあるわけですね。内容の入れ替えはするのでしょうか。

◎柴崎館長

一人の方が使っていると他の方が使えなくなってしまうので、ディスプレイは3台程度を考えています。コンテンツは3台とも同じものです。

◎大野委員

銀行のキャッシュディスペンサーは振込み、入金、出金等ができますよね。同じようにそれぞれ目的別に専用の機械3台があるわけではなく、例えば歴史を押せば歴史関係が、観光を押せば観光関係が出てくるといったように、どの機械でも同じように使えるということですよ。

◎岡本アドバイザー

デジタルサイネージは大きく分けると2通りになります。

先ほど申し上げた仙台駅にあるものは一方的に情報が流れていくだけで、大規模に人通りがあるところは比較的一般的なものですよ。

一方施設内に設置する際は、もう少しインタラクティブ的要素と言いますか、例えばバスの時刻表を調べるというように利用者に操作をしてもらうのですが、そうしますと周りの人たちが利用できなくなりますので、複数台設置することで特定の方が使っている他の方は表示されているものを見たり自分も操作できるようにするという感じです。

◎板橋委員

3台も使うぐらいこのコーナーに人が来るのかなと思うのですが。

◎大野委員

会議が始まり図面を拝見した時は大変驚きましたが、おっしゃるように名取市には郷土資料館も無ければ、誰もが行って使えるような情報を公開する場も無いわけですよ。それが図書館の中に集約されてあると考えればとても楽しいと思うし、郷土資料館が無い現状を鑑みると子どもたちにとってはこのコーナーが郷土資料館的なものになり得るだろうし、郷土の生きた歴史に触れ合える場になるのではないかと思いますので、この案に賛成します。

◎早川委員長

事務局に確認ですが、ここのコーナーにだけ準備室が備えられておりますが、埋蔵文化財は増える一方でこの場所での収蔵は難しいでしょうから、郷土資料館的な、過去の財産をサテライト展示していくというコンセプトでこの形と機能を考えたのでしょうか。また文化財担当との調整はどのようになっていますか。

◎柴崎館長

委員長がおっしゃるように、ここは文化財担当に相談して進めているところです。現在歴史資料館はありませんが、将来それができたら、ここはサテライト的な位置付けと考えています。ここで興味を持った方は、より多く展示されている歴史資料館へ足を運んでもらうような考え方です。

◎早川委員長

準備室に文化財担当主管課職員は常駐するようになるのでしょうか。

◎柴崎館長

名前が準備室となっていますが、実際は企画展をする際のパネルをしまっておく等、物をしまっておく倉庫のイメージです。

◎早川委員長

名取市の現在までの財産を展示するというのは非常に大事なことだと思いますし、デジタルサイネージを活用して名取市が目指しているまちのこともここに来ると分かるような展示というのは非常に重要だと考えます。図書館の郷土資料コーナーはややもすると過去のものだけがあって、現在と未来のつながりがなかなか見えないというようになることもありますので、この形を見るときちゃんとそこところは踏まえているということが読み取れます。ただ埋蔵文化財と民族資料の将来的な見通しを踏まえたことなのか、つまり現時点で将来的に歴史資料館を他につくる等、市と調整された上でフレキシブルさを損なわないような運営ができるのかをお伺いします。このようなコーナーは固定化されてしまいますとつまらないものになってしまうので。

2点目として形がこれでいいのか、スクリーンを見る場合、この雷神山のテーブルでは1クラス入らないのではないかと。総合学習や調べ学習の対応を考えた場合ここで総合学習や調べ学習ができる形の方が望ましいと思います。

3点目として、このコーナーを特別なコーナーにするという考えであれば別ですが、他のコーナーとの連続性が保たれていないように見えますので、この形で良いのか、もう少し工夫する余地があると思います。

◎柴崎館長

小学生の郷土の学習をするスペースということもありますが、日常的に一般の人も入るところでありますので、小学生の授業をここですというイメージではなく、短い時間であれば立って話しを聞いたり、組み合わせテーブルを除けて椅子だけを並べて話を聞いたりといった使い方を考えています。

資料を使って学習をするという目的で来られるのであれば、資料を手にとって3階学

習室で授業をしていただく等、このコーナーで授業をするという使い方は難しいと考えています。ここはパネルを出して企画展示をすることも考えていますし、限られた面積の中で有効に使うとなるとこのような形になってしまうのかなと思っているところです。

他のコーナーとの連続性が無いとのご指摘については、設計会社から3階フロアの書架の並びと同じように並行な並びの書架の提案もされましたが、単調になってしまうのではないかと思いました。確かに連続性ということがひっかかりますが、例えば色彩を統一するようになれば違和感が無いつくりにはできるのではないかと思っています。

名取市の方針としてははっきりと歴史資料館をつくるような計画は打ち出されてはいませんが、ある程度の見通しがあった上でサテライト展示という位置付けで文化財担当と調整が取れていると認識しています。

◎板橋委員

行政資料のところのスクリーンは要らないのではないのでしょうか。本を読んでいる人にとっては、映像を流されると迷惑なのではないのでしょうか。

◎柴崎館長

日常的にスクリーンを降ろし映像を流しておくというものではありません。特別な場合に使うと考えていただければと思います。利用者が多い時にこの場でイベントを開催するわけではなく、例えば閉館後に夜の催しものをするとか、利用者の少ない平日に見学に来られたグループ等に対し、スクリーンを使って説明するという使い方を考えています。

◎板橋委員

利用頻度が少なくスクリーンに映像を映す際には音も出すのでしょうから、学習室の利用についても触れられていましたが、どちらにせよここで読書する一般の方にとっては不要なものだと私は思います。

◎早川委員長

その他ありますか。岡本さんから何かありますでしょうか。

◎岡本アドバイザー

これまで出てきた意見等を踏まえますと、情報発信コーナーの場所についてはよりアクセスの良いところの方がいいのではないかというご意見があり確かにそのとおりだとは思いますが、ただ新図書館の規模からしますと現実的にその場所の確保は難しいといえます。図面でご覧いただきますと、入口に近いところはそれだけのスペースを取れる場

所が存在しないと言えます。

また、名取市に関する郷土資料や行政資料のような名取市図書館にだけ存在するような資料をここに置かれますので、セキュリティーの面でも職員が目が届きやすい場所の方が管理運営上望ましいと言えます。

情報発信コーナーについて似たような取組みをしているのは、亘理町立図書館が比較的このような感じですが、1階にいわゆる情報発信コーナーがあって、2階が図書館、3階が郷土資料室のような構成ですが、つくり方によっては何の空間なのかよく分からなくなってしまうがちですが、私個人としましては、今回図書館の中に機能的にこのようなコーナーを組み込むというのは新しいチャレンジで良いのではないかと思います。

今回この情報発信コーナーの中で特に大切な部分というのは、震災関連資料の展示をする場所としての意義が大きいと思っています。震災関連の展示室というのは各自治体でいろいろ動きが見られますが、お薦めできないのは単独施設をつくることです。

例えば、仙台空襲の際の被害を伝える仙台市戦災復興記念館がありますが、現実的には人はあまり入っていません。

負のイメージを伝える施設に、人は積極的には足を運ばないものだといえるのではないかと思います。この施設は東日本大震災以降注目度が高まりましたので、以前と比べると入館者が増えているようですが、他の空襲施設ではなかなか難しいです。したがって、おそらく震災による被害だけを伝える施設をつくるよりも、図書館のような施設の中に入れておいて、10年後、20年後、30年後、時間が経つにつれ東日本大震災を知らない世代が出てきたときに、このようなコーナーを使って普段の図書館利用の中でおじいちゃんやおばあちゃん方が伝えられるというのは、今回の非常に大きな意義ではないかと考えます。

他の自治体でも単独フロアや単独施設を使って震災を伝える取り組みが増えてきていますが、これはあまり望ましいことではなくて、やはり図書館の通常利用の中に組み込まれているからこそ良いと思われれます。

南相馬市立図書館をご覧になられた方は見られたかと思いますが、図書館内の一角に震災と原発災害の資料コーナーがあり、ごく日常の中で震災のことを思い出したり語り継いだりするような機能を入れるという意味で、この場所にあるというのは望ましいのではないかと考えています。

それ以外で組み合わせテーブルの話がありましたが、実物を見てみないと分かりにくいですが案外使われるのではないかと思います。近隣では、塩竈市民図書館が開館した際に浦戸諸島の形をしたテーブルを作っています。そのような象徴的なものを作っておくということは決して悪くないですね。他所から来た人からすると良い学びの機会を得ることができますし、このような取り組みは開館時だからこそできる部分でもあります。知識が浅くて大変恐縮なのですが、私は名取市に4年間来ていて雷神山を今日初めて聞

きました。名取市は歴史文化遺産がとて多いということは知っていましたが、こういう形で伝えていくというのは悪くなく、普通のありふれたものを置くよりも、今回せっかく開館のタイミングでもありますので、こういうものを整備されるのは良いのではないかと考えています。

あとは懸念事項として挙がっていましたデジタルサイネージに関しては、ご指摘のとおりで、まだまだ使い方は全体的にどこの施設でも模索段階にあると言えます。東北地方では白河市立図書館がデジタルサイネージを導入していますが、あまり更新されておられません。この部分を克服するためには、データ更新しやすいシステムを導入すること、このことはメーカーの工夫が進みちょっとしたパソコンの操作程度で済む仕組みが登場してきていますので、先行導入した白河市立図書館のようにはならないのではないかと思います。また市民発の情報がどれだけ出てくるのかということもありますし、上手く使えば館内の貼りものが減りその分のコストも減らせるのではないかと考えています。

◎早川委員長

他にありますでしょうか。無ければ私から最後によろしいでしょうか。震災関連資料と郷土資料がこれで足りるのかどうかという心配があります。こういう種類の資料は蓄積される一方で、なかなか閉架書庫に入れにくいものでもあります。できるだけオープンにされるように収蔵能力の計算をされると良いかと思います。

先ほど岡本さんがおっしゃったように、常に動きのある攻めのコーナーにしてもらいたいと思います。こういうコーナーは攻めの姿勢を失うとすぐに古臭くなって人が来なくなってしまうので。過去も現在も未来も分かるコーナーにしていただければと思います。

(2) 家具等のレイアウトについて

◎早川委員長

では次に(2)家具等のレイアウト図について、事務局より説明をお願いします。

◎柴崎館長

前回と前々回の委員会で、ゾーン毎に家具のイメージを説明させていただいております。前々回で児童コーナーと新聞・雑誌コーナーの境をどうするかということでしたが、家具配置によりクリアできるのではないかという意見を基に、図面のように家具配置を考えてみました。ご不明な点がありましたら質問等していただきたいと思います。

◎早川委員長

ではまず 2 階からご質問やご意見ををお願いします。

◎下澤委員

前回の検討委員会で、児童コーナーについて小学生 1 クラスが調べ学習できる程度の座席数を確保すべきではないかとの意見がありましたが、図面で数えてみると 24 席、学習室を使うとすると 20 席で 1 クラスの子どもたちが座れる場所は無いようですが、座席数はこのままでしょうか。

◎柴崎館長

確かに図面を見ると座席数が少ないように感じますが、冊数を優先するとこのようになってしまいます。もう少し座席数が増やせると良いのですが、何か良い案があればお願いします。

また、児童スペース内に●が 2 つありますが、ここはお座りをして本を読む場所です。大まかに言いますと、児童スペースの右半分が低・中学年、左半分が中・高学年の子どもたちが使うというイメージでテーブルの高さや椅子の大きさを考えています。

◎早川委員長

確認ですが、1 クラス分の子どもたちが座れるように変更の余地はあるのでしょうか。

◎柴崎館長

1 クラスとなると 40 人分の座席を確保できるかどうかについて、大平さんからご意見ををお願いします。

◎大平主任

40 人規模が座るのは難しいですね。40 人がまとまって座るとなると、かなり書架を減らさないといけなくなります。

仮に情報発信コーナーを使うのであれば、古墳の形をしたテーブルを分けて端に寄せて、空いたスペースに椅子を並べるといったことぐらいしかできないですね。

◎柴崎館長

学校でクラス毎に高学年の子どもたちが郷土の学習しに来る場合は、児童コーナーでよりは、むしろ情報発信コーナーを利用するのではないかと思います。また読書の場合であれば、おはなしのへやを利用することもできるのではないかと思います。

◎板橋委員

高館小学校は全校生徒が 108 人だけですが、学校によって 1 クラスの児童数が多かつ

たり少なかったりします。私は図書館部分の座席数についてはこのままで良いと思いますし、クラスで図書館に来るという機会はそれほどあるとは思えません。席が足りないのであれば公民館を借りてもよろしいのではないのでしょうか。

◎大野委員

この施設は2階と3階の図書館だけではなく4階の増田公民館もありますので、そのようなオリエンテーション的なことが必要な際には公民館を活用すれば良いと思います。それは複合施設の良いところではないかと思います。

◎早川委員長

1 クラス分の座席数を必ず確保しなければならないというわけではありませんが、調べ学習と図書館を使った授業展開というのは南相馬では常に行われていました。南相馬市立中央図書館には学級招待席が児童コーナーの上にあって、そこで子どもたちに限られた時間内で効率的な調べ学習ができるようにガイダンスをよく行っていました。そのような使われ方がされていないのであれば問題は無いと思われませんが、想定として今後はそのような取組みが必要になるかもしれないということが挙げられます。

2 点目としましては、いずれにしましても名取市規模の児童コーナーでこの座席数は少なく、心配になります。

なぜかと言いますと、名取市は若い人の多いまちであり、児童コーナーは2階の売り場です。確かに収蔵能力と座席数の確保というのは腕の見せ所になるわけですので、もう少し柔軟に考えていただきたいと思います。

◎板橋委員

実際に各学校で子どもたちを新図書館に連れてこれるのかという問題があります。

◎志賀委員

私の相互台小学校で新図書館まで子どもたちを連れて行くとなりますと、バスの手配が必要になります。そのような地理的状況の学校は市内で他にもあり、実際に授業として調べ学習で子どもたちを連れて行ける学校は限られますので、日常的にはあまり無いだろうと思います。学校教育との関係からしますと新図書館と学校図書館との連携の工夫が課題ではないかと私は考えています。児童コーナーは本がたくさんあって、子どもたちが楽しく過ごせる場であってほしいなと思います。学校では畳を敷いて子どもたちが座れるようにしていますが、図書館でも床に座れるところがあっても良いのかもしれないと思います。

◎板橋委員

図面で◆と描かれている部分を除けばだいぶ座れるのではないのでしょうか。

◎柴崎館長

これは前々回の検討委員会で提案しました、小さいおうち型の家具です。子どもたちが中に入って楽しめるものとなっています。

◎志賀委員

●は何でしょうか。

◎大平主任

床に敷くカーペットです。子どもたちが座って本を読むスペースです。

◎三塚委員

カーペットと小さいおうちを別々に点在させるのではなく、大きなカーペットの中に小さいおうちを置いた方が広く使えるのではないのでしょうか。

◎大野委員

靴を脱いで上がる場所ですらよろしいのでしょうか。

◎柴崎館長

そうですね。

◎志賀委員

欠席していて分からない部分がありますが、おはなしのへやは普段どのように使われるのでしょうか。イベント時のように、もしある一定時間にしか使わないのであれば、普段から開放し有効活用できるのではないのでしょうか。

◎柴崎館長

おはなしのへやはイベントの無い時は自由に入出りできるようにするつもりでしたが、図面を改めて確認すると、おはなしのへやと児童コーナーが書架で区切られ、同じコーナーのように見えない印象を受けています。おはなしのへやまでを全て含めて、家具の配置を再考すべきかなと今思っているところです。

◎大野委員

そういうことであれば、汽車型書架やベビーカー置き場も含めて一体的に再検討されてはいかがかなと思います。宮城県立図書館にも児童コーナーにも同じくおはなしのへ

やのような空間がありますが、赤ちゃんから小さいお子さんまで読み聞かせするにはなかなか良いスペースです。

◎三塚委員

おはなしのへやはおはなし会をしていない大部分の時間をオープンにして、親子の読み聞かせや触れ合える場所になると良いと思います。利用者に絵本を持って読んでも良い場とさせていただくことを考えると、現在の書架の置き方ではない方が空間につながりができると思います。

◎岡本アドバイザー

現在のどんぐり子ども図書室との連続性を考えた方が良いかなと思います。子ども図書室は土足でも入れるように変わりましたが、当初は靴を脱いで寝転がったり自由にでき、木の温もりを生かすところでしたので。

確かにおはなしのへやとは別の場所に靴を脱いで上がって自由に使えるような場所があった方が良いのかもしれませんが、ただ懸念するのは、全般的にフロアがかなり広くて土足領域も多いので、衛生的に子どもが寝転がっても良いかどうか気になるところです。

現在の仮設の図書館規模であれば掃除が行き届きやすいですが、新図書館の規模で寝転がることができると、逆に親御さんが不安を持ってしまうかもしれないですね。

おはなしのへやは囲ってありますのでその点の心配は無いと思います。

◎佐伯委員

小さいうちの中は土足で入れるのでしょうか。

◎柴崎館長

既製品ではなく特注品になると思いますが、私自身は靴を脱いで使ってもらう場所だと考えていました。

◎佐伯委員

島型にし、靴を脱いで上がった方が動きやすくなるということはありませんね。

◎大野委員

現在のどんぐり子ども図書室にあるマットのようなイメージでしょうか。

◎柴崎館長

フロアと同じところにカーペットがあって、子どもが靴を脱ぐかといえば脱がずに上がってしまうのではないかと、皆様のご意見を聴いてとても心配になってきました。考

え直したいと思います。靴を脱いで上がる場所はおはなしのへやだけとし、靴を脱いで仕舞える場所を作りたいと思います。

◎早川委員長

確認です。書架レイアウトのタイムリミットはいつごろでしょうか。

◎大平主任

今月の中旬ごろを想定しています。来年3月には名取市に図面を提出しなければならないのですが、そのためにはレイアウトを12月までに決めなくてはなりません。家具関係の図面を描いたりそのための打合せや修正が必要になったりしますので、その分を引いて逆算しますと今月の半ばごろとなります。

◎早川委員長

タイトなスケジュールですので、今日の意見を踏まえて事務局へ一任ということになりますね。

◎柴崎館長

今日お伺いした意見を十分に踏まえた上で、書架のレイアウトを考えて皆様にお知らせいたします。次回は11月6日を予定としましたので、その時にご報告したいと思います。

◎三塚委員

2階の図面の水色や緑色の模様が何なのか説明していただけますか。

◎柴崎館長

水色の●は二人掛け用ソファ、書架と同じ●は展示用のテーブル、緑色の■はスツールとなっています。

◎三塚委員

おはなしのへやの開口部はどのくらいでしょうか。

◎大平主任

出入り口は両開き引戸で、アールがかかっているところはガラス張りで見えるようになっています。ガラス張りにしている理由は中が見えるということと、お子さんが一人でトイレに行っても親御さんから見えるように視野を広げるためでもあります。

◎三塚委員

開口部を最大にして広げるとどのくらいでしょうか。

◎大平主任

3メートルになります。

◎三塚委員

靴はどこに置くようになりますか。

◎大平主任

入口に下足入れを置く予定です。

◎三塚委員

紙芝居書架は面置きになるのでしょうか。

◎大平主任

縦に入れるようになります。おはなしのへやの中にある書架は大きな絵本の書架になります。

◎早川委員長

私からよろしいでしょうか。名取市の規模からすると2階カウンターと3階カウンターが小さすぎると思います。またセパレートタイプにもなっていませんので、相談を受けにくいのではないかと思います。私の経験と反省から、相当資料相談件数が増えると思います。南相馬市立中央図書館では、セパレートタイプの相談受付をいくつか備えています。土・日曜日は足りない状況だからです。

2点目は雑誌と新聞を見るテーブルや椅子の配置が逆ではないでしょうか。雑誌棚を前面に持ってきた方が、利用者はゆっくりと読めると思います。この図面の配置だと導線上にテーブルと椅子がありますので落ち着かないと思います。

それと入口の黄色いジグザグは何でしょうか。

◎大平主任

これはソファになります。

◎早川委員長

導線上、頻繁に人が行き交うところにソファがあると落ち着かないのではないかと感じます。新聞を見る利用者の図書館での滞在時間が長くなってきていますので、配慮していただければなお良いのかなと思います。

では次に3階部分で情報発信コーナー以外についてお願いします。

◎佐伯委員

エレベーター後ろの水色になっている部分は何ですか。

◎大平主任

水色のものは椅子です。うねった形のものは、天井から吊り下げた木ルーバーで隙間を空け壁のような空間を演出しようと思いました。椅子は自由に自分が気に入った木ルーバー窪み等に動かすことができます。

◎大野委員

要はブラインドを縦に落としているようなものでしょうか。

◎大平主任

はい。まるつきり壁にしてしまいますと見通しが悪いので、ちょっと隙間を空けた壁という感じで固定のルーバーにしてみました。

◎板橋委員

カウンターで貸出しはできますか。

◎柴崎館長

こちらは調査・相談用、つまりレファレンス用のカウンターと考えています。

◎板橋委員

他の図書館ではフロアが分かれている場合、フロアごとに貸出ししているのでしょうか。

◎早坂委員長

大体それぞれのフロアで貸出しできるようになっています。

◎柴崎館長

こちらのカウンターでも貸出しできますが、できるだけ2階フロアにある自動貸出機

を使っていたきたいと考えています。

◎板橋委員

自動貸出機があるということですが、総合カウンターは貸出しがメインで、3階のカウンターでも貸出しするわけですね。

◎柴崎館長

2階の総合カウンターは貸出しできますが、それがメインではなくあくまで案内カウンターという考え方です。多くの利用者にはなるべく自動貸出機を使っていたきながら、中にはなかなか使いづらいという方がカウンターを利用されるようになるかと考えています。

◎板橋委員

自動貸出機は使い方に慣れると良いですが、高齢者にとって自動貸出機を使うのは難しいのではないのでしょうか。

◎早川委員長

これまでいろいろな図書館を見て来ましたが、一番良くないのは相談する形になっていないんですよ。利用者はあきらめてしまうし、図書館側はきちんとした対応が取りづらい。名取市はせっかくプロの司書が揃っているのに、その専門性を出す機会が奪われてしまいかねないので、このカウンターの形状は一度考えた方が良いでしょう。

板橋委員がおっしゃるように、一般的に高齢者は自動貸出機を使いたがりません。

また、CDやDVDも自動貸出機を使えるかどうかポイントになります。

◎大野委員

どのような形状が望ましいのでしょうか。

◎早川委員長

テーブルが離れているセパレートタイプが良いです。

◎大野委員

総合カウンターの形はセパレートタイプとは違うのでしょうか。

◎大平主任

一本でつなげており、セパレートタイプではありません。

◎大野委員

例えばテーブルを区切って離すといった対応ではどうなのでしょう。もしくは具体的なご提示があった方が事務局は考えやすいと思いますが。

◎早川委員長

要するにそういうことです。利用者が落ち着いて相談できる形にすべきだということです。

◎柴崎館長

早川委員長のおっしゃるセパレートタイプのカウンターというのは理解しています。カウンターの横のグレーの■は自動返却機を想定していますが、これも含めて再考したいと思います。

◎早川委員長

2階フロアの資料相談はこのカウンターでしかできないのと、3年程度は新規登録が増えてこの場所に集中することを考慮し、3つぐらいのセパレートタイプのカウンターがあれば相談しやすくなるのではないかと思います。

◎柴崎館長

セパレートタイプにしたからといって、常時その場所にずっと職員を配置するのは難しいので、職員がすぐに移動して登録手続きやレファレンスの相談にのりやすいような雰囲気のカウンターをつくりたいと考えています。

◎大野委員

新しい図書館ができたからといって、職員数が増えるわけではないのですね。そのような中で、窓口用のカウンターを増やすのはバランス的にどうでしょうか。

◎早川委員長

名取市は司書が充実していますので、他の自治体のお手本を見せられると思います。

◎三塚委員

私も初めて来館した人が相談しやすいように2階総合カウンターをもう少し充実してもらいたいと思います。行きやすい図書館とは何かと言いますと、来館した人への案内がしっかりしている図書館だと思います。自動貸出機とは別に人の顔が見えるカウンタ

一を考えていただければうれしいと思います。

◎板橋委員

視聴覚コーナーは3席ありますが、何年か毎のリース契約を考えているのでしょうか。予算が無くなって使えなくなったところもあり、良い施設を造っても後から使えなくなるのでは困ります。

◎柴崎館長

機器類について、リースか買取りかということは今後決めていくことになります。視聴できるものは、図書館で所有しているDVDに限るようになります。

◎板橋委員

ここで視聴したいときはこの3席のブースを利用できるわけですね。

◎柴崎館長

運用面はこれから決めますが、一人の方が3本も4本も視聴するのではなく、映画1本を観る程度になります。

◎下澤委員

自動貸出機の設置場所を教えてください。また、3階には置かず2階のみに設置するというのですが、3階にも置いた方が良いのではないのでしょうか。

◎柴崎館長

現時点では2階総合カウンター前の■が自動貸出機になります。3階への設置は検討しましたが、いずれ2階を通過して外に出ますので、2階に4台集約させて設置するというように考えました。

◎大野委員

施設としてはエレベーターや階段を使えば各階に行けるわけですね。ゲートが付いているのは2階入口だけですね。

◎柴崎館長

1階から4階まで通じているエレベーターはエントランスホールにあるEV1になり、EV3は図書館内の2階と3階を行き来するエレベーターになります。

◎大野委員

階段 1 の外階段は普段利用できるのでしょうか。

◎柴崎館長

普段は電気錠で鍵がかかっており利用できません。

◎大平主任

2 階から 3 階へ行く場合は、図書館内の階段 2 を使っていただくようになります。

◎志賀委員

図書館から 4 階公民館へ行くには必ず 2 階を経由しないと行けないのでしょうか。

◎柴崎館長

3 階から 4 階には通じていませんので、必ず 2 階を通ることになります。2 階の図書館ゲートを通して、2 階エントランスホールのエレベーター使って 4 階に上がるようになります。

◎板橋委員

エントランスホールのエレベーターから 3 階には行けないわけですね。

3 階から 2 階へ行って借りて、2 階エントランスホールエレベーターで 4 階公民館に行くことは可能というわけですね。

ただ、一番多い一般書架のある 3 階で借りることができず、自動貸出機もありませんので、2 階へ行って手続きをしなければならないわけですね。

◎岡本アドバイザー

3 階に自動貸出機を置かない主たる理由は何なのでしょうか。

◎柴崎館長

特にこだわっているわけではないが、現時点では予算上 4 台分の計画をしている程度です。2 階に 2 台、3 階に 2 台や 2 階に 3 台、3 階に 1 台といったようにいろいろ考えられますが、いずれ 2 階フロアを通して外に出るわけだから 2 階へ集約しようと考えただけで、大きな理由というのはありません。

◎早川委員長

南相馬市立図書館では自動貸出機は 4 台設置しています。自動貸出機の値段は高すぎ

るので事務局の苦しみはよく分かりますが、適正価格での調達を目指し、ぜひ3階にも設置していただければと思います。

◎岡本アドバイザー

やはり価格でしょうね。決して安くはないと思います。販売している事業者の立場からすると、人件費削減になるのだから値段が高くなってしまいますというのが言い分です。

実際はうまく使えなかったりして、どうしても人のサポートが必要になります。だから1台入れれば人件費一人分浮くという話ではありません。もし3階に設置する場合、委員の皆様にご理解いただきたいのが、それ相応に職員を配置しなくてはいけなくなると思います。その部分の人件費というのは、良い図書館のコストとしてご理解いただきたいと思います。

また、対応として誰でもできるということではないと思います。自動改札口や券売機やATMを使うことがあると思いますが、人のサポートが必要な場合、お客さんは怒っていますので、対応する職員がきちんとフォローしないと図書館使うのが嫌だとなりかねませんので。

各フロアに自動貸出機が設置されていることは理想だと思いますが、同時に職員の配置が必要になってきて行政コストが必ずかかるということをご理解いただきたい部分ですね。

こういうのを無人化しようとする取組みもありますが、今の情報技術ではうまくいかないですね。ただ自動貸出機は使い出すと、結構使われるようになると思います。待つストレスは減りますし、小さなお子さんは一回覚えると常に使いますので。それはそれでとても良いことだと思います。

それと自動貸出機で良いところは、自分が手に取っている本について、図書館職員が公務員であったとしても知られたくないという方がいます。例えば病気に関する本等内容的にセンシティブですと借りに来ている人が誰なのか、よく来ている方であれば名取市規模ですと図書館職員はほぼ分かってしまいますので、これは公務員である図書館司書側も知りたくない秘密を抱え込むことになってしまい、司書は口外しませんが、元々お互い知らない方が良いというケースもあります。お互いにとって辛いことです。

そういうことを含め運用コストがかかってくることをご理解のうえで各フロアに設置するというのは良いかと思います。

事務局側としても導入コストやランニングコストとは別に人員コストがかかってくることもご理解いただきたいと思います。

◎早川委員長

はい、ありがとうございます。三塚委員がおっしゃった、来やすく温かみのある図書館で、かつ自動貸出機は両立が可能であり、より活けると私は経験上思っています。お互い気を遣わない選択ができるようになるというところが、今とは全然違うところですよ。

南相馬市立図書館では、自動貸出機で借りて最後に職員に話しかけて帰る利用者がたくさんいますので、そういう図書館であってほしいなと思いますね。

自動貸出機の導入にあたって、当初は図書館の雰囲気が冷たくなるのではないかという議論がありました。温かみのある図書館は、自動貸出機があっても無くても温かい対応ができる図書館だと私は思います。名取はそれが十分できる図書館だと考えていますので、実現に向けて頑張ってくださいと思います。

では家具のレイアウトはよろしいでしょうか。後からでも図書館へ気付いたことがあれば伝えていただければと思います

◎柴崎館長

ご自宅へ帰られた後に、もう一度このレイアウト図を見てお気づきのことがありましたら、お気軽に図書館までご意見をお願いします。

(3) その他

◎早川委員長

では(3) その他ですが、何かありましたらお願いします。

◎岡本アドバイザー

繰り返しになるかもしれませんが、委員の皆様は市民代表のお立場でもありますので、ある程度書架には費用がかかることをぜひご理解いただければと思います。安い本棚を買えば、いくらでも安くなります。

例えば震災やその他の水害で本棚が水に浸かってしまった場合、安い本棚を買っていると、本は水を含むと膨らみますので、棚ごと壊れてしまうんですね。やはり安いメーカーを採用したものは顕著に壊れています。

これは東日本大震災で各地を調査しましたが、壊れたところには大概何かしらの理由があるわけですね。それは古いものをひたすら使い続けてきたか、元々安物だったかです。図書館整備というのは、30年から40年使われることを考えますと私たちの人生で見ますとやはり一生ものと言えるところがありまして、多分今日ここにお越しの方にとっては、今度建設する名取市図書館の次の図書館を見るということは無いと思います。最近の建築工法で建てられる公共施設は50年という期間を、私たちコンサルタントや設計

会社は普通に求められています。

ですから中の設備を5年や10年で買い換えるということは考えにくいことですので、20年から30年は使えるもの、書架メーカーも努力するでしょうし、調達する上での行政側の努力もありますが、やはり普通のものよりは高いものであるということをご理解いただきたいと思います。

最近この部分が安くできる提案をされる事業者がいるのですが、ここだけに目を奪われてしまうと将来的に必ず高くつくということと、被災地ということでご存知かと思いますが、もし将来何かの災害により被災した場合、それを災害特例法等で国の税金を活用して買なおすことになった場合、買なおしてよいものはその時点で入れていた商品と同等品しか買えません。つまり安物を買えば安物しか買えなくなるということです。これはいろいろな自治体でかなり問題になっていますので、最初の段階がとても大事で、ある程度良いものを買うということが大切です。最終的に市民の方から高いのではないかという声が出てくるかと思われませんが、将来において無駄なお金を使わないことにつながりますので、ぜひ委員の皆様には長期投資として見た場合には決して高い買い物ではないという趣旨をご理解いただいた上で、図書館にありますカタログの参考価格をご確認いただければと思います。実際にはその参考価格で調達するわけではなくいくらか安くはなりますが、ただそれでもある程度のお値段にはなってしまうということは、ぜひご承知していただきたいと思います。

◎早川委員長

はい、貴重なご意見ありがとうございました。その他ありますでしょうか。

無いようですので、本日の議題（1）から（3）は以上とさせていただきます。ありがとうございました。事務局に進行をお渡しいたします。

◎事務局

次回の検討委員会の日程は11月6日午後3時から、名取市図書館南館を予定しています。追ってご通知を差し上げるようになりますのでよろしくお願いいたします。以上をもちまして本日の検討委員会を終了します。ありがとうございました。